

CAMPUS NOW

2017
新緑号

早稲田大学広報
通号223号

- 12 **Rising Star**
大学院 先進理工学研究科 宿輪理紗
株式会社成文堂 小林 等
- 14 **研究最前線**
社会科学総合学院教授
中林美恵子
- 16 **第二世紀へのメッセージ**
作家
恩田 陸
- 18 **進化する大学**
ICC (異文化交流センター)

特集

早稲田

学生のいま、むかし
ある学生の日々
むかしからいまへ
〜ここまで変わった早稲田のキャンパス〜
早稲田定点観測いま、むかし



「集まり散じて人は変れど 仰ぐは同じき理想の光」

2016年度卒業式、2017年度入学式を挙行

3月24日、25日、26日に、大隈記念講堂他にて、学部卒業式、芸術学校卒業式、大学院学位授与式が行われました。

この日、学部卒業生9,084名、芸術学校卒業生44名、大学院修士課程修了者1,934名、大学院専門職学位課程修了者506名、博士学位受領者204名の合計11,772名が新たな門出を迎えました。そのうち750名が海外からの留学生です。

3月24日の受領者代表学位記授与式では、学術・芸術・スポーツで特に

優れた成果をあげた学生または団体に対して、小野梓記念賞が授与されました。また、歌人である佐佐木幸綱氏より祝辞が送られるとともに、本学から佐佐木氏へ早稲田大学芸術功労者の表彰が行われました。

一方、4月1日、2日、3日には、2017年度の各学部・大学院・芸術学校の入学式が大隈記念講堂他にて行われました。

2017年4月の学部入学者は9,098名、大学院入学者は2,927名で、2016年9月

の学部・大学院入学者998名と合わせると、4月1日現在の1年生の総数は、13,023名になります。このうち1,648名が海外からの留学生で約13%を占めており、世界各地から数多くの優秀な人材が早稲田の杜に集まりました。

総長は、式辞で「新入生の皆さんには、これまでに蓄積してきた豊富な知識を前提としながら、早稲田大学の提供する優れた教育環境を、また、個性豊かで多様な教員・学生との切磋琢磨の機会を、主体的かつ積極的に活用することで、これからの時代を牽引し、不透明な時代を逞しく生き抜いていくために必要とされる基礎的なスキルとマインド、さらには総合的な人間力を涵養して下さることを切に期待しています」と新入生を激励しました。



サークル勧誘で賑わう4月1日入学式当日のキャンパス風景



受領者代表学位記授与式にて、総長より学位記授与



芸術功労者賞として表彰された佐佐木幸綱氏



入学式で初めての校歌斉唱

現役生たちがスポーツ界を沸かせています

早稲田生アスリートが世界を舞台に活躍中

「東京都選手権」で 水泳部の渡辺一平選手が 世界新記録で優勝

1月29日、東京辰巳国際水泳場で行われた競泳の北島康介カップ2017「東京都選手権」にて、水泳部の渡辺一平選手（スポーツ科学部3年）が男子200メートル平泳ぎを2分6秒67の世界新記録で優勝。スタートからゴールまで圧巻の泳ぎで、人類史上初のタイムを叩き出しました。渡辺選手は、リオ五輪同種目の準決勝で五輪記録をマークするも、決勝では6位。帰国以来、その悔しさをバネに2020年東京大会に向けて強化に取り組んでいます。

「2017 IPC アルペンスキー ワールドカップ白馬」で スキー部の村岡桃佳選手が 今季初優勝

3月5日～7日、長野県白馬村で「2017 IPC アルペンスキーワールドカップ白馬」が開催され、スキー部の村岡桃佳選手（スポーツ科学部3年）が、スーパー大回転 女子座位で今季初優勝。大回転女子座位では3位と2つのメダルを獲得しました。

フィギュアスケート世界選手権で 羽生結弦選手が2度目の優勝

3月30日よりフィンランド・ヘルシンキで行われたフィギュアスケート世界選手権に、ソチオリンピック金メダリスト・羽生結弦選手（人間科学部通信教育課程）が出演し、合計得点321.59点をマーク。3季ぶり2度目の優勝を果たし



表彰式で歓声に応える渡辺一平選手
（共同通信社）



女子スーパー大回転座位 第2レースで優勝し、
今季W杯初勝利を挙げた村岡桃佳選手
（共同通信社）



逆転優勝を果たし、
表彰式でメダルを手に
笑顔の羽生結弦選手
（共同通信社）

ました。ショートプログラムでは出遅れるも、フリーでは今シーズン初めて4つの4回転ジャンプをすべて成功させ、ノミスの完璧な演技を見せた羽生選手。自身の歴代世界最高得点記録を上回る223.20点を記録し、大逆転

しました。今回のフィギュアスケート世界選手権は、来年の平昌冬季オリンピックの国・地域別出場枠を懸けており、1位の羽生選手が日本男子の3枠獲得に貢献しました。

早稲田 いま、むか

PART 1

学生のいま、むかし

～ある学生の日～

“いま”と“むかし”の学生の日を比較します。
“いま”の早稲田では、多様なサービスや施設を利用することで、充実したキャンパスライフを送ることができます。

1 朝起きて1日の授業を確認

履修している授業の予定をポータルサイト「My Waseda」で確認。大学からの連絡も、スマートフォン、自分のPCから見られます。

2 グリークラブの明日の練習予定がスマホに…

えっ、明日は朝練!?



現代の学生の主な連絡手段は、SNSやスマートフォンの通信アプリ。クラスごと、サークルごとにグループが作られ、一斉連絡や情報共有も簡単です。

3 キャリアガイダンスに参加

興味があったキャリアセンター主催のイベントに参加。低学年からでも、さまざまな学内プログラムに参加することで将来のイメージが少しずつ描けそうです。

- インターンシップ・プログラム
- プロフェッショナルズ・ワークショップ
- 公務員キックオフガイダンス
- WAVOC「体験の言語化」プログラム
- 企業との連携プロジェクト
- 夢中になれることが見つかるセミナー

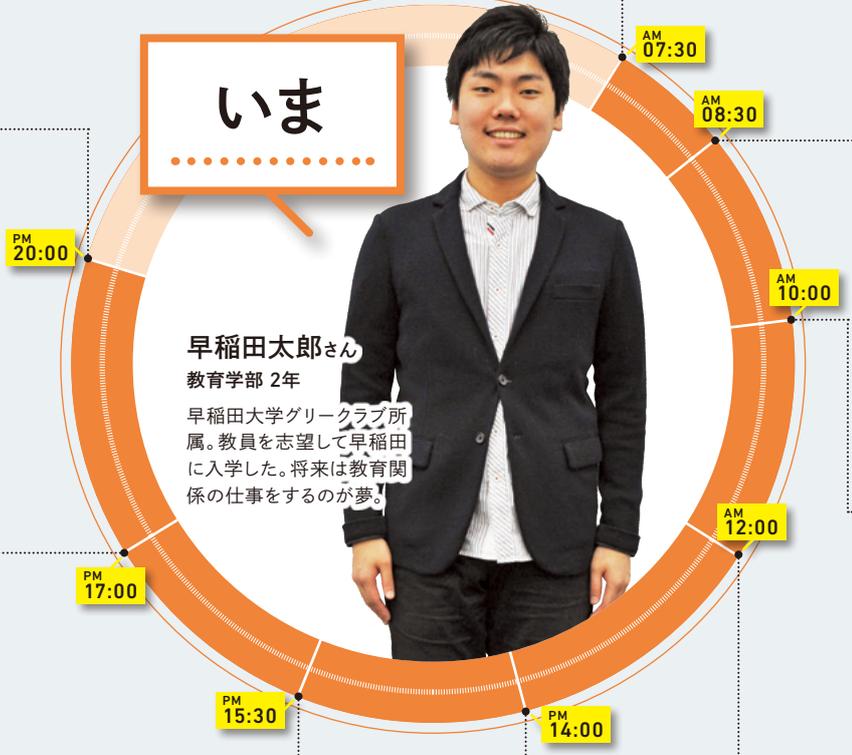
ほか多数!

いま

早稲田太郎さん

教育学部 2年

早稲田大学グリークラブ所属。教員を志望して早稲田に入学した。将来は教育関係の仕事をするのが夢。



4 PCスペースで検索

レポート作成のため、図書館で調べ物をするに。行く前にPCスペースに立ち寄り、図書館資料検索システム「WINE」で欲しい資料があるか探します。

資料のデジタル化も進んでいます



5 プレゼンテーションの練習

演習授業のプレゼンテーション発表に向け、仲間と準備。テレビや無線LAN、ボードを使って発表練習ができる「W Space」のブースを利用します。



6 外国人留学生と昼食

昼食がてら留学生と交流できる、ICC（異文化交流センター）主催のイングリッシュランチに参加。最初は慣れなかったものの、徐々に打ち解け、英語で冗談も言い合えるようになりました。

各国語ランチは他にも中国語やスペイン語、言語指定なし等さまざま。ひとりでも気軽に参加できる雰囲気がいい!



し

アジアのリーディングユニバーシティとして、早稲田大学は
 授業のIT化・キャンパスのグローバル化など、ハード面・ソフト面ともに進化を続けてきました。
 この30年で、大きく変化したキャンパスの“いま”と“むかし”を比較します。
 変わってきたキャンパスを見つめると、
 その中でも揺るがず変わらない早稲田の姿も見えてきます。

自宅でも
 移動中でも、
 必要な情報が
 手に入る!



1 授業の前に100円朝食

1限の前に、カフェテリアで期間限定キャンペーン中の100円朝食を。大学が目指す「健康キャンパス」の取り組みの一貫で大学も学生の健康をバックアップしてくれています。



ワンコインなので
 お財布にも優しい

英語での授業

1限は英語で専門知識を学ぶ授業を取っています。留学生と一緒に学ぶため、レベルの高い英語、専門知識と多くの刺激が得られます。



いろいろな国の友達ができるのも
 早稲田らしさ!



むかしのスクールバス

高田馬場駅とキャンパスをつなぐスクールバス。むかしはこんな車体のバスに乗って通学していました。



分煙は
 あまり進んで
 いなかったん
 ですね



1 授業の前に一服

キャンパス内には灰皿や喫煙所が多く、構内の至るところに「禁煙」の張り紙がありました。



むかしはサークルの
 連絡にも苦労
 したんだろうなあ



むかし

馬場健児さん
 1990年卒業

はやりのテニスサークルに所属。商社マンになるのが夢。



AM 08:30

AM 10:30

PM 17:00

PM 14:00

17時〇〇さん
 先にお店に
 行っています!

友達と伝言板で 待ち合わせ

地下鉄東西線の早稲田駅には、待ち合わせの連絡をするために伝言板が設置されていました。

次の授業は休講だった!

授業の情報ははじめ、大学からの通知事項はキャンパスにある掲示板に貼り出されていました。「授業を受けに行ったのに、来てみたら休講だった…」ということもありました。

200人教室で授業

200人規模の大教室で教員の講義を聞く、いわゆる「マンモス授業」が一般的でした。教員と学生が会話できる機会は、通常の授業では多くなかったようです。



女子学生も
 今よりずっと
 少ないね



PART 2

むかしからいまへ

ここまで変わった
早稲田のキャンパス

授業や施設など、さまざまな面で進化した
早稲田大学をキーワードに沿って紹介します。

01 授業

少人数教育やICTの活用で
一人ひとりの理解がより進む
授業が数多く用意されています。

掲示板で情報確認

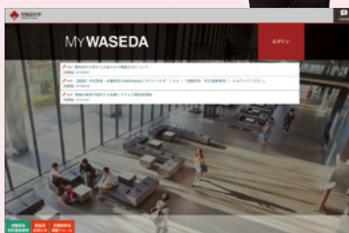


My Waseda



困ったことが
あったらまず
My Wasedaを
開きます

履修状況、大学からの連絡やメールは
ポータルサイト「My Waseda」で確認
できます。各種申請書のダウンロード、
履修登録や成績確認もWeb上で行え
ます。



大人数の「マンモス授業」



少人数教育の増加

先生との距離感が
近くて、疑問が早く
解決しやすい！

20人以下の少人数クラスの授業は年間
で48%、50人以下は81% (2015年度)。
教員との接点が増えたことで、細やかな
指導と密度の高い学習環境を実現して
います。



教室で受講



オンデマンド 授業の充実

学習管理システム「Course N@vi」を利用して、学外にいながら
オンデマンド授業導入科目の受講、レポート提出が可能に。教室
でPCを活用し、出欠や出席者の交流に利用する授業も増加中。



座学がメイン



実践型・ 体験型学習

ディスカッションやグループワークといった双方
向性の授業をはじめ、実験や演習形式の体験型
学習が増加しています。意見交換や実地体験を
通じて、理解度が高まります。

発言の機会が多くて、
授業はいつも活発な
雰囲気です



通年科目・半期科目



クォーター制へ

外国人留学生、海外の教育課程修了者を柔軟に受け入れるため、1年を4学期に分けるクォーター制。全学オープン科目や文学部等を筆頭に、順次導入を開始しています。

英語の授業



英語で授業

世界水準の質の高い授業を英語で提供することで、日本にいながら世界を体感する環境を実現。世界中で活躍するグローバルリーダーが育っています。

英語学位プログラム開設

7学部13研究科で英語を使ってそれぞれの専門知識を学ぶ学位取得プログラムを実施しています。

学部

- 政治経済学部 英語学位プログラム (EDESSA)
- 社会科学部 現代日本学プログラム (CJSP)
- 基幹理工学部 国際コース
- 創造理工学部 国際コース
- 先進理工学部 国際コース
- 国際教養学部 (SILS)
- 文化構想学部 国際日本文化論プログラム (JCulP)

研究科

- 政治学研究科
- 経済学研究科
- 商学研究科*
- 経営管理研究科
- 基幹理工学研究科
- 創造理工学研究科
- 先進理工学研究科
- 環境・エネルギー研究科*
- 情報生産システム研究科
- 社会科学研究科
- スポーツ科学研究科*
- アジア太平洋研究科
- 国際コミュニケーション研究科

*博士後期課程のみ対象



外国人留学生との交流や海外留学経験で、世界を舞台に活躍できる人材を育成します。

海外派遣留学生 約200人

※1990年度



海外派遣留学生

3,691人

※2016年度

NEW! 留学生数日本一

外国人学生の人数は5,431人(2016年度)。日本・世界各地から集まった学生たちが生活する国際学生寮WISHや、ICCによる留学生との多彩な交流プログラムなど、キャンパス内外には異文化交流の機会が多く用意されています。



国際学生寮WISH 寮生の声



政治経済学部 2年
モスブロッカー
デミー アイコさん

WISHに入寮してから今年の9月で2年になります。共同生活の中でお互いに成長できるルームメイトたち、頻繁に行われる寮内のさまざまな交流イベント、プログラム……。人見知りする私にとって、新しい出会いや学びで溢れている寮生活は大きな魅力でした。いろいろな文化体験が連続する刺激的な毎日、WISHにしかありません!



約900人の日本人学生と留学生が共生

海外留学は「時代の最先端」から「スタンダード」へ。1ヵ月程度の短期から長期まで多彩な留学プログラムをそろえ、2032年度には全学生が留学経験者となることを目指しています。

※人数算出方法はむかしといまで一部異なる

こんな時代もあった むかしの風景

● コピー機に長蛇の列

試験前はノートをコピーするため、学内のコピー機が大人気でした。いまの学生は、ノートをスマートフォンのカメラで撮影、クラスで共有することも。

● 理工学部的女子は希少

理工学部的女子学生は1割以下と少なく、アイドル的存在でした。

● メーリングリストで連絡

クラスやゼミ、サークルごとにメーリングリストがあり、一斉連絡。それ以前は連絡網を作成し家庭の固定電話で回していました。

● 立て看板がいっぱい!

キャンパスは立て看板だらけ。サークル勧誘、イベントの告知から、学生団体の主張まで内容もさまざまでした。



定番フォトスポット・大隈銅像の周りにも常に立て看板があった

● PC利用にも長蛇の列

自分のPCがない時代、Eメールの確認やインターネットの利用のため、朝からPCルームに長蛇の列ができていました。



PCを自在に使える人は今よりずっと少なかった

● ポスターだらけの掲示板

構内の掲示板には、サークル、アルバイト、同人誌などのポスターやチラシがいっぱいに貼り出されていました。



演劇やスポーツ、文芸など、サークルの多様性は今も変わらない

● 試験内容の掲示

試験内容は掲示板に一斉に貼り出され、学生は自分の履修する授業を探して確認していました。



現代のSNSのように、友人グループと共有する手段はなかった

03 施設・設備

授業・自習・課外活動など
学生のニーズに合った
多様な施設・設備が整っています。

NEW!

語学教室棟・29号館



2017年4月から、Tutorial English、Tutorial Chinese、CCDL (Cross-Cultural Distance Learning) に利用される教室を中心に整備されています。少人数で学べるよう分けられた教室やTOEFL会場としての機能も備える施設も併設。

どんな人でも
過ごしやすい
環境ですね



自習は一人で黙々と

むかし
いま

グループ 学習施設

学生たちが主体的に学び合う「アクティブ・ラーニング」を支援し、多様な学習スタイルに応える空間として「W Space」をはじめとするラーニング・コモンズ空間を各キャンパスに整備。ディスカッションや発表など、さまざまな目的に合わせて利用できます。



ゼミの発表
練習から
自習まで、
好きな環境を
選べます



NEW!

ダイバーシティに 対応した施設

学生や教職員の多様性に合わせて、対応した施設を整備。託児室や授乳室の設置に加え正門のスロープ化など、構内のバリアフリー化も進んでいます。



大きな黒板に 板書

むかし
いま

CTLT 教室

ビデオ会議や電子黒板、授業の収録システムを備えたCTLT教室を授業やセミナーで利用。ICTを活用した新しい教育に取り組んでいます。



最新の設備で
授業参加の方法も
変わります



むかしの 風景

● 「試験一発勝負」という美学

法学系の科目は出席を取らない授業も多く、試験のみ出席して一発勝負に懸ける猛者もいました。

● プレハブ校舎で授業

戸山キャンパスでは、施設の建て替えや耐震工事が続いたこともあり、スロープ脇のプレハブ校舎で一部の授業を行っていました。

● 古書店街 →ラーメン激戦区

早稲田～高田馬場界限は古書店街として有名で、ラーメンやカレーなどの飲食店はそれほど多くありませんでした。



教科書を古書店で買い求める学生も多かった

● 公衆電話で 合格報告

入学試験の合格発表掲示には多くの受験生が訪れ、公衆電話に列を作って遠方の家族に連絡していました。



合格発表の時には、臨時的公衆電話を増設

● 中央図書館の むかし

中央図書館のある場所にはかつて、安部磯雄記念野球場（安部球場）がありました。早慶戦はもちろん、日米交流試合など多くの試合が行われました。



安部球場は東伏見キャンパスに移転

旧学生会館



学生会館



部活動やサークルの部室、練習・会議スペースを利用できます。学生生活課やキャリアセンターなど、学生サービスの窓口も設置されています。

調べ物は図書館に足を運んで



電子データで 閲覧

中央図書館や演劇博物館では、資料の電子データ化が進行中。古書や絵巻、写真などのデータベースがWeb上で閲覧でき、図書館外でも学習時に役立ちます。

貸し出しができない古書も気軽に閲覧できる！



灰皿がたくさん



キャンパス内 分煙化



受動喫煙防止・分煙化の流れに対応して、キャンパス内は原則禁煙に。キャンパス内の喫煙所の数も限定しています。

04 就活・キャリア

入学後の低学年時から、キャリア形成の段階に応じた支援体制が組まれています。

企業人との接点はOB・OG訪問



インターシップでの 単位換算もOK

早稲田大学では、インターンシップを進路に対する考えを深める機会であり、キャリア教育の一環として位置付けています。大学公認プログラム以外にも、条件を満たすプログラムであれば単位を取得できます。

企業の方と実際にプロジェクトを進める経験もできます



就職活動は各自で



支援体制充実

キャリアセンターは進路・就職相談、資料閲覧、みらい設計支援行事等の企画を行っています。就職活動中の学生はもちろん、低学年の学生も段階に応じて支援が受けられます。



むかし

だいたい
4年に入ってから
就職活動

いま

1年生から
キャリア形成

就職活動は授業とは別



授業や課外活動を通じたキャリア形成

大学で得た多様な経験は全て自分の将来につながります

就職活動だけでなく、授業や課外活動も進路決定につながる貴重な機会です。早稲田大学には入学後から卒業後までも、キャリアを形成するチャンスが学内外に用意されています。



05 学生サービス

学生へのサービスはもちろん、
学生発のサービスも充実。
教職員と学生がともに
大学をつくっています。

貸与型奨学金



給付型 奨学金

早稲田大学独自の学内奨学金は100%が給付の奨学金で約100種類あり、全国の大学でもトップクラスの給付人数と給付金額の実績を誇っています。

例

「めざせ!都の西北奨学金」(2009年度~)

入試の出願前または出願期間中に申し込み、採用候補者に受験前または合格発表前に入学後の奨学金給付を約束する予約採用型奨学金

「早稲田の栄光奨学金」(2017年度~)

学内での留学出願前に奨学金の選考から結果発表まで行うため、奨学金を見込んだ留学費用の資金計画を可能にする返済不要の予約採用型奨学金

ほか

NEW!

学生 アドバイザーが活躍



留学や就職活動など、さまざまな学生アドバイザーが学内で活躍しています。学生目線のアドバイス提供の他、イベント企画や情報発信にも携わります。

願書は
手書き



Web出願

インターネット上で出願するシステムが2017年度入試より整備されました。合格発表の確認や入学手続きもオンラインで行えます。



大学で働くといえば学生職員、TA



Student Jobの幅が広がる

TA(教務補助)だけでなく、キャンパスツアーガイド、IT利用支援スタッフなど、働く場所は多種多様。大学運営に学生が積極的に関わっています。



一人暮らしでも
安心!



健康は自己管理が基本



保健センターが しっかり支援



各キャンパスに保健センターの分室があり、健康診断などの体のケアだけでなく、個人の心のケア、健康に関する授業も実施しています。

NEW!

障がい学生 支援サービスの充実

大学づくりに
関わっている実感が
得られます



障がい学生支援室が中心となって、授業時のノートテイク(パソコンテイク)や移動支援を行う支援者の育成、支援体制のコーディネートなどを行っています。



学内のStudent Job一覧

事務補助業務

事務補助者…学術院および各事務所付けのスタッフ
臨時職員…科目登録補助、各種イベント補助、留学生チューター
簡所雇用の学生スタッフ…ポータルオフィス学生スタッフ、
WAVOC学生スタッフなど
試験監督
委託業務で働くスタッフ…図書館業務、総合案内など

教育補助業務

TA
SA(スチューデント・アシスタント) …出欠調査、提出物の整理など

研究補助業務

RA(リサーチ・アシスタント)
研究補助者

いま



むかし



1

會津八一記念博物館

1998年、2号館(旧図書館)に設置された會津八一記念博物館。旧図書館の外観はそのままに、會津八一が生前望んだ博物館が実現しました。

2

BIGBOX

高田馬場駅前のBIGBOXは1970年代の竣工です。開発が進み、BIGBOX手前のロータリーの様子は大きく変わりました。

むかし



いま

PART 3 早稲田定点観測 いま、むかし

大学の施設や周辺の移り変わりは街の歴史そのものです。“むかし”と“いま”の光景を同じ位置から切り取って、変わったもの、変わらないものを定点観測します。



いま



3

大隈タワー

大隈講堂と道路を挟んで隣にある大隈タワーは、むかしは学生会館でした。独特の雰囲気から、中には入りづかったという話も。



むかし

4

金城庵

大隈通り商店街の老舗の蕎麦店は、のれんも看板もむかしのまま。周りの建物が高くなって、より密集した街の印象になりました。



いま

むかし



いま

5

三品食堂

西門付近にある三品食堂。周囲の建物はコンクリート造に変わりましたが、店のメインはいまもむかしも変わらない「牛めし・とんかつ・カレー」の三品です。



むかし



学生生活を通して得た視点や能力を生かし、最前線で活躍する学生と校友を紹介します。今回は大学院 先進理工学研究科2年の宿輪理紗さんと、株式会社成文堂の小林等さんに、大学での学びや経験、社会とのつながりを語っていただきました。

在校生

Student

早 稲田大学と東京女子医科大学が連携し、医学と理工学との融合研究教育拠点として2008年に創設された両学の連携先端生命医科学研究教育施設（通称「TWIns」）。宿輪理紗さんは、ここで再生医療に役立つ最先端の研究に携わる。臓器を作製する際に必要な細胞種のみを患者から分離する技術の確立のため、東京女子医科大学と共同で研究している。早稲田に医学部はないが、「TWInsでは未来の医療の現場に役立つ研究に携われて、多くの刺激を受けられる」という。

きっかけは高校の授業。「ヒトの誕生については謎が多いんだな。遺伝子がひとつ欠けるだけで病気の有無や生死が決まるのも不思議」と、生物学や医学に興味を持った。「人の役に立ちたくて、医学部に進むことも考えましたが、臨床で

役立つ研究をすればより多くの患者さんを救えると考え、医学と理工学の両方を学べる生命医科学を志望しました」

医師から日常的に助言をもらって研究できるTWInsは、宿輪さんの希望通りの環境だった。「医学も理工学も、それぞれの分野にとどまらず連携することで、患者さんが本当に望む技術や薬が生まれるかもしれない。それに関わることができればカッコいいな」と、夢を抱きながら研究に打ち込んでいる。

学部生時代は西早稲田キャンパスで毎年開催される理工展の運営サークル「理工展連絡会」に所属し、3年次には史上初の女性の実行委員長に。4年生からはTWInsで研究を始め、TWIns内で早稲田と東京女子医科大学の交流会を主催するメンバーにもなるなど、宿輪さんの活躍の場は多彩に広がる。「何か思い立った

最先端の研究と学内外での活動、全てが成長の刺激に

宿輪理紗さん

大学院 先進理工学研究科
生命医科学専攻修士 2年

しゅくわ・りさ

東京都出身。2016年早稲田大学先進理工学部生命医科学科を卒業し、同年大学院先進理工学部研究科に進学。平日の日中は研究活動に専念し、学会の発表を控える時期は、朝早くから夜遅くまで研究や考察に没頭する日もある。息が詰まったと感じたら、普段電車で通学する区間を歩いて帰ることで気分転換を図る。カメラを携え、旅行に出かけることが趣味。



Snap Shot



代表を務めた理工展連絡会のメンバーと、第61回理工展終了後に

ら、自分ですぐにやりたくなってしまう」という活発さで学外にも飛び出し、学会発表などさまざまな活動を続けた結果、今年、若者が小池百合子都知事と東京都の未来を話し合う「東京未来ビジョン懇談会」に招かれた。懇談会ではスポーツ・芸術・芸能などで活躍する若手メンバーと顔を合わせ、今後は意見を交わす機会も設けられている。「メンバー唯一の大学生で、リケジョ*でもあり、医学と理工学が融合した最先端の研究に携わる立場でもある。さまざまな立場はあるけれど、しがらみのない意見を述べたい」と、公の場でも臆せず発言していくつもりだ。

学内外で多くの刺激を得ている宿輪さん。大学院の理系ということもあって、周りにはメーカーや製薬会社の開発・研究職に進む人が多いが、自らの進路は研究職にこだわらない。「早稲田で幅広い知識や経験を得られたことで、社会に出てさまざまな分野から吸収し続けたいという想いが強くなりました。今まで研究してきたように、誰かの役に立つ仕事をしながら、を通して自分の好奇心も満たされれば一番の理想ですね」。変わらない信念と大きな意欲の前に、可能性は無限に広がっている。

*理系女子学生の愛称

ひと口に編集者といっても、媒体によって仕事内容は大きく変わる。早稲田キャンパス正門の目と鼻の先に店舗を持つことでおなじみの出版社、成文堂で働く小林等さんは、法律書を中心とした学術書を主軸とする同社の編集者だ。「大学教授などその道の専門家の先生方に執筆をお願いするため、編集権を持って内容に手を入れることは基本的にありません。企画立案にはじまり、校正や資料づくりなど裏方として執筆作業をサポートするのが主な仕事です」と小林さんは語る。

日本史に興味があり入学したのは第一文学部。4年生までは学生寮で寮生活。日常生活から対外的なイベントへの参加まで、同世代の学生たちと苦楽を共にした4年間を「学生生活の中で最も大きな思い出」と振り返る。

4年生になり進路を考えた時、「もう少し勉強を続けたい」と考え、大学卒業を保留。この頃「本が好きで、一番よく行く書店が店員を募集していたから」と始めたのが、成文堂書店でのアルバイトだった。本の陳列や販売から、POP広告づくりなどの販売促進まで、小林さんの仕事はどんどん広がっていった。「学術書でも漫画

Snap Shot



学生時代、2006年に寮生とともにジャワ島地震の震災復興ボランティアに参加。出発前に寮生と舎監さん、そのご家族と（小林さんは右から3番目）
提供：公益財団法人早稲田大学YMCA信愛学会

任されて初めて スタートライン 「信頼」つないでいく

小林 等さん
株式会社成文堂
編集部

こぼやし・ひとし

奈良県出身。2010年第一文学部卒業、2013年から現職。担当する先生の授業や研究室を訪ねて、書籍について話し合う毎日を送る。編集者の魅力は、「その道の専門家と1対1で仕事をし、それが書籍という形となって残ること」。休日はドライブに洗車と、マイカーライフを楽しんでいる。



でも、面白い本を見逃さないことが書店員の腕の見せどころ」だと感じるようになった小林さんは、次第に書店での仕事にのめり込んでいった。その働きぶりが評価されたのか、2013年に当時の専務に「編集部には社員として来ないか」と誘われることに。「私にとっては青天の霹靂でしたが、その場でお受けしました。『断つてはいけない』と思いましたね。直感を信じ、何も分からないまま編集の世界に飛び込んだ。

同じ会社でも、店舗と編集には大きなギャップがあった。仕事は校正の仕方、先生方の専門分野など基本を覚えることに始まり、企画や交渉などの編集者としてのコミュニケーションスキルも求められる。

「私には、先輩編集者のような先生方との信頼関係もなければ、知識や話術といった武器もない。ならばとにかく与えられた仕事を誠実に果たしていく中で、

ひとつずつ、信頼をつないでいく。それを心掛けました」

中でも、早稲田大学の講義録の編集に関わり、教授や講師とともに1冊をつくり上げた経験は「それぞれの講師の希望を調整し、自らも提案を繰り返しながら1冊の本をつくり上げる中で自分を引き上げられた」と、大きな自信につながった。

「編集者は15年続けて一人前になれる」と入社時に言われ、この4月で5年目。小林さんは「編集者として、まだスタートラインにも到達していない」と自分を評価する。「私は『成文堂の小林にこの1冊を任せたい』と言われて初めて編集者になれるのだと思います。そんな信頼される人を目指し、誠実さという初心を忘れることなく、新しいスキルも身に付けたい」

まずは自身の言う「スタートライン」に立つため、小林さんは一歩一歩堅実に歩みを進めている。



(上) 米国の政治機構や財政についての文献
 (左下) 中林教授の研究室。米連邦公務員時代の書類をはじめ、多くの資料がそろっている
 (右下) 世界で活躍するリーダーを育成する「グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム」で、沖縄の米軍基地の現場を見学

揺れ動く米国政治を見つめ
 より良い日米関係に貢献したい



研究 最前線

Frontline Of The Study

社会に貢献する最新の
研究についてお話を聞きました。

米国は欧州に比べて新しい国ですが、戦後から今日まで世界を主導し、世界の仕組みに大きな影響を与えてきました。日本にとっても関わりの深い国であり、それだけに理解しようとする努力は欠かせないでしょう。私は米国連邦議会上院予算委員会補佐官を約10年間務めた経験を生かし、ライフワークとして「日米をつなぐ」ことに力を注いでいます。その中のひとつが研究、もうひとつがグローバルな人材育成です。

私の研究テーマは、国際公共政策研究の中でも米国の財政、予算です。予算とは、国がどの政策に力を入れるのか目に見えて分かるものです。予算は民主政治の過程の中で「民意が国政にどう反映されているのか」を分析することにもつながります。予算編成はまさに政治そのものといえるでしょう。最近の話題の中では、今年誕生したドナルド・トランプ政権と議会が絡んだ予算編成過程も研究テーマです。日米の比較も視野に入れながら、議会資料などを基に調査・分析しています。大統領選は日本でも注目されましたが、そこで選ばれたトランプ大統領が国の方向性をどう示すのか、もちろん私の中でも大きな関心事です。日々

政治の局面は変化するので、時差があっても編集されていない生中継で節目節目の展開を追うこともしばしばです。

調査・分析が主となる研究ですが、その中で大切にしているのは、研究者ながら衆議院議員だった経験も生かしつつ、研究と政治現場の乖離かいりにも目を配ること。さらに言えば、私自身が政治の現場からかけ離れないようにすることです。米国には「public intellectual」という言葉があり、これは公的な議論の場に出たり、政策決定に関わったりする研究者や知識人のことをいいます。米国にはpublic intellectualが多いますが、日本の研究者の場合、それを良しとしない風潮もあります。米国が絶対に良いわけではありませんが、私は研究を机上の空論にしないためにも、できるだけ現場に出るようにしています。「現場の感覚を大切にする」という私のスタイルを含め、研究を通して日本がさらに良くなるヒントが見つければと考えています。

こうした研究の中で蓄積された日米の政治経済、市民社会などの知識は、多様な知見を持つ人材育成のため、授業の中で学生に伝えています。さらに、国際社会をリードするグローバル・リーダー

を育てようと、アメリカの名門大学との協働で2012年度からスタートした「グローバル・リーダーシップ・フェローズ・プログラム」も今年3月まで携わりました。これは毎年別々の元総理大臣を教室に招いてディスカッションしたり、米国の名門大学に留学したりと国内外のトップに触れられるプログラムです。2月にはフィールドトリップで沖縄の米軍基地の現場にも訪れました。実際に現地に行くことで、「基地問題」とまとめられたニュースだけでは分からないものが見え、学生にとって日米の理解が格段に進んだようです。学生には若い感性を生かして視野を広げ、人とつながり、世界に羽ばたくチャンスをたくさん経験してほしい。私自身も学生時代、米国への留学をきっかけに自分の世界が広がり、米国の政治の中枢に関わる経験ができたのです。4月からは社会科学部の現代日本学プログラムで日本と世界の橋渡しに取り組んでいます。どの学部においても大学生活は今後の人生も左右する大事な期間で、学問や体験を通して判断力を養える期間だと思います。私は授業やプログラムを通して、学生に多くのきっかけを提供していくつもりです。



トランプ政権への関心の高まりからメディアに出演する機会も多く、日米での講演や書籍執筆も行っています。これを機に世界の政治を学ぶ人が増えてほしいと考えています

Professor

中林美恵子
社会科学総合学術院教授



なかばやし・みえこ

大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了、博士（国際公共政策）。米ワシントン州立大学大学院政治学部修士課程修了、修士（政治学）。米国在住14年間のうち、永住権を得て1992年から米国連邦議会・上院予算委員会補佐官（共和党）。2002年に帰国し、独立行政法人・経済産業研究所研究員、衆議院議員、早稲田大学留学センター准教授などを経て、2017年4月より現職。



失敗と社会勉強は 多い方がいい 人間同士じゃないと 得られないものもある

恩田 陸さん
作家

音楽と読書が学生時代の全て

— 学生時代はどのように過ごされて
いましたか。

学生時代に一番熱中したのは音楽でした。両親の影響で小さい頃から音楽に親しんでおり、特にピアノはずっと続けてきましたが、大学で入会したのはビッグバンドサークル「早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラ」。憧れのアルトサックスに挑戦し、女性初の管楽器のメンバーとして卒業しました。当時ハイソサエティは「体育系文化部」といわれるほど練習が厳しく、私が初心者だったこともあって、ひたすら練習し、演奏活動に励みました。音楽にどっぷり浸かり、一方では趣味の読書のため図書館通い。好きなことをとことんやらせてくれる早稲田の「放し飼いの」雰囲気が好きでした。



Profile

おんだ・りく

1987年早稲田大学教育学部卒業。1992年『六番目の小夜子』で作家デビュー。2005年『夜のピクニック』で第2回本屋大賞、2006年『ユージニア』で日本推理作家協会賞、2007年『中庭の出来事』で山本周五郎賞をそれぞれ受賞。2017年には『蜜蜂と遠雷』で第156回直木三十五賞、第14回本屋大賞を受賞。



第156回直木三十五賞、第14回本屋大賞を受賞した著作『蜜蜂と遠雷』。直木賞とのダブル受賞、本屋大賞の二度目の受賞はいずれも史上初

1冊との出会いで開けた作家への道

— 大学卒業後は会社員時代を経て、小説の執筆を始められたそうですね。執筆を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

就職して会社員となった頃、ちょうど日本はオフィスのOA化が始まったばかりでした。社内の記録が全てアナログからデジタルに移行するため、私は紙の書類の整理・分類・入力作業に終日追われ、夜遅くまでの残業や休日出勤もしていました。せっかく社会人になって、自分のお金で単行本を買えるのに、趣味の読書どころか本を買う時間もなくなってしまった。疲労から体調を崩したこともありました。そんな折に「第1回日本ファンタジーノベル大賞」の大賞受賞作『後宮小説』に出会いました。内容がすごく面白かったし、何より著者の酒見賢一さんが私と1歳しか変わらず驚きました。「こんなに若くして小説を書いてもいいんだな」と。それがきっかけで、自分も書いてみようと思いついたのです。

その後会社を辞め、半年で作品を書いて「第3回日本ファンタジーノベル大賞」に応募。最終候補まで残ったのがデビュー作『六番目の小夜子』です。

— デビュー後は再就職し、しばらくお仕事をしながら執筆されたそうですが、

兼業作家のご経験は今にどのように役立っていますか。

当時は編集者にも「仕事をした方がいい」と勧められたし、私もプロになれるとは思っていなかったので、就職活動をして、昼間は会社勤め、夜帰宅してから執筆という兼業を7年続けました。仕事に追われる経験、上司や同僚との付き合いなど、会社で得るものはたくさんありました。何より、多くの人を通る会社員という道を経験できたことが作家としては良かったなと思います。

— 直木賞、本屋大賞をダブル受賞した『蜜蜂と遠雷』は音楽を題材としています。この作品が生まれたきっかけをお聞かせください。

大好きな音楽、その中でも一番好きなピアノを題材にしようと考えたとき、演奏家のさまざまな思いが交錯し、ドラマ性のあるコンクールを思いついて『蜜蜂と遠雷』が生まれました。小説は直接音を聞かせることができないので、登場人物や、曲の長さに合わせて演奏シーンをあらゆる表現で描写するのに苦労しました。だからこそ、読者の皆さんが「読んでいると頭の中に音楽が流れてくる」と感想を寄せてくださるのがうれしいです。直接音を聞かせられなくても、読者の皆さんが思い思いに音楽を頭の中で再生してくださる。書き終えてみて、音楽と小説は相性が良かったんだなと気づきました。

失敗も人生の「肥やし」になる

— 作家志望の若者や、早稲田大学の学生に向けてメッセージをお願いします。

私は新人賞の選考委員になることもあります。選考の中で賞をゴールだと思ってしまう人を見かけます。文学をよく勉強して、賞を取るために流行を押さえた作品を書くのもいいですが、賞はこれから作品を書き続けるためのスタート地点です。流行はすぐに変わるし、何より「これが売れている、はやっている」と時流を追うだけでは書き続けられない。自分の好きなものを書いてほしいです。

学生の皆さんには、さまざまな経験をして、失敗もどんどんしてください、と言いたい。失恋でもいいし、どんな挑戦だっていい。失敗はその後の人生で必ず役に立ちます。また負の感情を経験しておけば、人の考えていることが分かり、優しくなれるはずですよ。

— 早稲田大学に期待することをお聞かせください。

今でも学生時代の友人と集まってお酒を飲めば、自然と当時の自分たちに戻ります。校歌にもあるように、早稲田大学にはいつでも帰れる場所として、「心のふるさと われらが母校」であり続けてほしいですね。

異文化に出会い、自分を知る

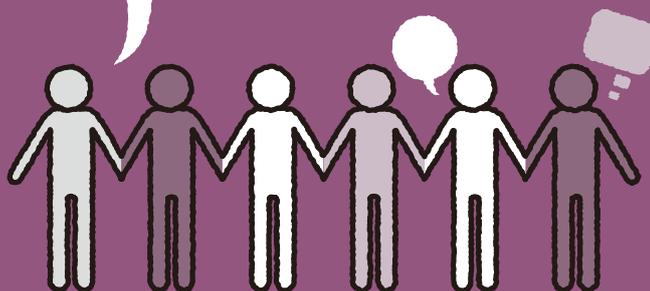
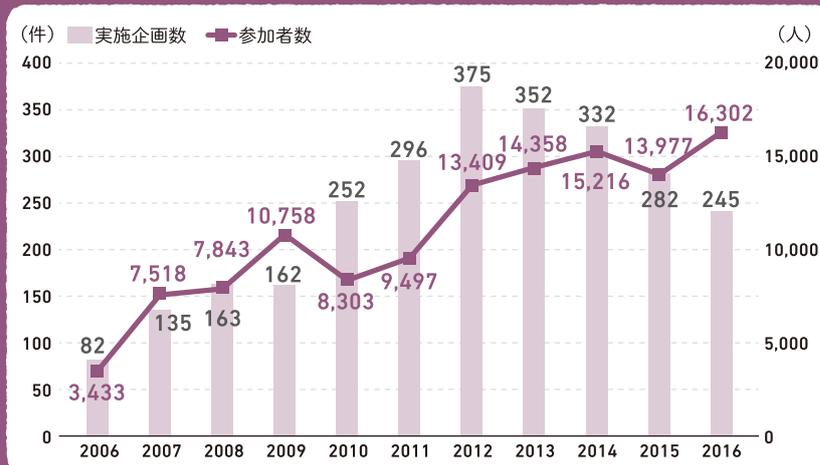
外国人留学生の増加とともに、さまざまなイベントを通じ、学内の異文化理解を促進してきたICC。設立11年目を迎えた今、今後の課題と取り組みについて伺いました。

多様な文化的背景を持つ学生が 自然に交流できる場を

ICC（異文化交流センター：Intercultural Communication Center）は、2006年に国際コミュニティセンターとして、外国人留学生とローカルスチューデント*1が交流する場の提供を目的に発足しました。その背景にあったのは、年々留学生が増加していたものの、どうしても同じバックグラウンドの学生同士で固まってしまうという現状があり、交流するための仕掛けが求められていたからです。

ICCは国際部ではなく学生部に置かれ、外国人留学生のみならず全学生に開かれたセンターとして、学生生活の中に多様性を根付かせるためのイベントを日々実施しています。発足当初は、3,000人強だった参加者も昨年度はその5倍をはるかに超える16,000人と、右肩上がりに増え続けています。イベントカテゴリー数、参加者数共に順調に伸ばしてきましたが、10年を機に、国際交流への関心の薄い学生サークル等との積極的な連携を図る方向に舵をきり、参加者の裾野を広げつつあります。

イベント実施数と参加者数の推移（2006～2016年）



スチューデントダイバーシティ
センター長
国際学院教授
三神 弘子

みかみ・ひろこ
アルスター大学大学院修了 (PhD)。
著書に"Frank McGuinness and
his Theatre of Paradox" (Colin
Smythe, 2002)、編著書"Irish
Theatre and Its Soundscapes"
(Glasnevin Publishing, 2015)、共
訳書『現代アイルランド演劇1～
5』(新水社 1991
～2001) など。



偏見を乗り越えて真の友情を育む

ICCでは、ランゲージ&カルチャー・エクステンジやカントリー・フェスタ、スポーツを介して交流を深めるイベントなど多種多様なイベントがありますが、中でも紹介したいのが、ICCの姿勢を象徴するふたつのイベントです。「日中韓ホンネ交流キャンプ」は、文化的・距離的に近く、さまざまな利害関係から偏見も生まれやすいお互いの国について語り合うキャンプです。前半はスポーツを通して親密度を高め、後半で領土問題や慰安婦問題など、興味はあるが普段正面から議論できないテーマ別に語り合います。見解の違いから意見がぶつかることもあります。学生たちは何が正しいのかではなく、未来に向けて自分たちはどうすべきかを語り合い、偏見を乗り越えた真の友情を育んでいます。もうひとつは、ノーボーダー・スキー&スノーボード・キャンプです。“キャンプ中はニックネームだけで過ごし、自分の本名、出身国、学部、学年等の属性をいっさい明かさない”というノーボーダー・ルールは、学生たちが先入観を持たずに友情を深める仕掛けになっています。

多様性への適応力を身に付ける 学生スタッフ

ICCの最大の特徴は、学生スタッフリーダーの存在です。彼らはイベントを企画・運営するだけでなく、イベントに関わるボランティア学生の取りまとめや、広報活動の一環でのプレゼンテーションなど、カウンター対応やその他の運營業務に加え幅広いタスクを担います。現在は7ヵ国20人の学生が在籍しており、6人の職員がサポートしています。お互いの価値観の違いを認識し、日本人同士の暗黙知が伝わらないことを前提としたコミュニケーションを学びながら、イベント



「日中韓ホンネ交流キャンプ」での
ポストイットトーク



ハラールフードに関するムスリム学生の
プレゼンテーション

学生スタッフリーダーの声 政治経済学部 3年 木村原貴さん

言語や文化、価値観の違うメンバーと一緒に働くICCでは、お互いの考えをできるだけ言葉にし、率直に話し合うことを大切にしています。議論の決着がなかなかつかないこともあります。自分の先入観を覆すような意見をもらいながら働けるのはICCならではの長特です。学生が異文化交流に触れるきっかけになる面白いイベント企画など、今後も新しい仕事にどんどん挑戦していきたいです。



現在20名の学生スタッフが所属
(後列左から2番目が木村さん)

企画に生かしています。インターンシップの要素も備えるこうした経験は、社会に出てからも必ず役に立つことでしょう。昨年はICC稲門会も発足し、学生スタッフの先輩後輩のつながりもできました。現役学生たちは、国連をはじめとする国際機関で活躍する先輩たちに大いに触発されているようです。また、昨年からは学生スタッフ研修にボランティア研修を取り入れました。障がい学生支援などを通して視野が広がった結果、マイノリティ理解につながるイベント企画が増えました。

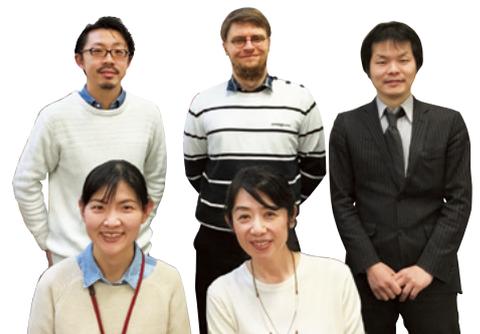
キーワードは “ダイバーシティへの理解と受容”

今後は、楽しくためになる交流イベントに加え、グローバル社会の課題やマイノリティについて理解を深める、一歩踏み込んだイベントに力を入れる予定です。今年度は日本にいるシリア難民の方を呼んでのトークセッションや、日本人の宗教観に触れる機会として明治神宮を訪問するイベント企画が進んでいます。

今年4月からはスチューデントダイバーシティセンターが設置され、その中の一部門として、これまで以上に障がい学生支援室やGSセンター^{※2}と連携を深めながら、相乗効果を図っていきたくと考えています。ICCのお膳立てがなくても、学生同士が自然に交流できることが理想です。しかし国連が必要とされるように、Waseda Vision 150の目標どおり、外国人留学生が1万人になり、全学生が留学を経験する時代になってもICCが果たすべき役割がなくなるわけではありません。これからもICCをさらに多くの学生に知ってもらうために、本学全構成員にも働きかけながら、持ち味の機動力で時代の関心の先をいく活動を行っていきたくと思います。

※1 ローカルスチューデント：国籍を問わず、日本で育った学生のこと

※2 GSセンター：新たに開設されたジェンダー・セクシュアリティに対応する組織



News Report

大学の今を知る

index

1月 January

U 1/31

お茶の水女子大学と早稲田大学が連携及び協力に関する協定を締結

R 1/31

エジプト学研究所が新たな岩窟墓を発見 [→P22 Pick Up](#)

2月 February

R 2/1

早稲田大学アクティブ・エイジング研究所の研究グループが「皮膚貼付型エレクトロニクス」を開発

A 2/8-3/7

「モノを蒐めるまなざし 早稲田大学會津八一記念博物館蔵のコレクションとともに」展を開催

A 2/19-2/24

第90回全日本学生スキー選手権大会でスキー部男子が総合優勝、女子は準優勝 [→P26 Pick Up](#)

R 2/21

理工学術院・山口潤一郎准教授らの研究グループが世界で初めて脱一酸化炭素金属触媒の開発に成功 [→P23 Pick Up](#)

3月 March

A 3/1-3/17

学内合同企業説明会を開催 [→P25 Pick Up](#)

A 3/1-4/28

會津八一記念博物館で富岡重憲コレクション「茶の道具」展を開催

R 3/7

理工学術院・石渡信一名誉教授ら研究グループが世界で初めて「細胞質流動」の再現に成功 [→P23 Pick Up](#)

R 3/7

早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所 (WABIOS) の研究グループは光をあてたナノ粒子から出る「熱」で、細胞毒性低く筋肉をワイヤレスに活性化する新手法を開発 [→P24 Pick Up](#)

U 3/7

新29号館が完成 [→P21 Pick Up](#)

U 3/8

研究分野別の世界大学ランキング「QS World University Rankings by Subject 2017」で46分野中9分野が100位以内にランクイン [→P21 Pick Up](#)

A 3/13

「Waseda Vision 150 Student Competition」の決勝大会を開催 [→P25 Pick Up](#)

R 3/14

理工学術院・梅津信二郎准教授の研究グループは、3Dプリンティング造形物の表面を化学溶解によって滑らかにする3次元化学溶解仕上げ機構を開発 [→P24 Pick Up](#)

R 3/15

本学の研究グループがコバルト酸鉛の合成に世界で初めて成功し、新規の電荷分布を発見 [→P23 Pick Up](#)

U 3/16

2016年度学生文化賞表彰式・総長招待 学生の集いを開催 [→P22 Pick Up](#)

R 3/17

理工学術院・紙屋雄史教授らの研究グループは短距離走行・高頻度充電の電気バス実証試験で一般道路走行時に約4割、高速道路走行時に約6割CO₂削減 [→P24 Pick Up](#)

A 3/17-4/5

「図書館所蔵の国宝・重要文化財展」を開催 [→P26 Pick Up](#)

U 3/24-3/26

2016年度卒業式・修了式ならびに学位授与式を開催

U 3/26

アントレプレナー育成プログラムを開催 [→P22 Pick Up](#)

A 3/29

早稲田大学スマート社会技術融合研究機構が第2回エネルギー・リソース・アグリゲーション・ビジネス・フォーラムを開催

A 3/30-4/18

ミュージアムスタンプラリーを開催 [→P26 Pick Up](#)

4月 April

U 4/1-4/3

2017年度の入学式を開催

A 4/7

「戦略的コンピューティングイニシアティブ」を開催

A 4/8

広告研究会が制作した外国人向け交通安全ポスターを新宿区内全域で掲示

本学の研究力が世界で高く評価されています
**QS World University Ranking
 by Subjectsで9分野が
 100位以内にランクイン**

英国のQS社*により、研究分野別の世界大学ランキング「QS World University Rankings by Subject 2017」が発表され、早稲田大学は全46分野のうち前年の3倍となる9分野が100位以内に入りました。

本学は、2014年度に採択されたスーパーグローバル大学創成支援事業「Waseda Ocean構想」において、2023年度までに18分野を世界ランキング100位以内にランクインさせることを目標としています。そのため、特に評価が高い6つの研究分野（1. 国際日本学、2. 実証政治経済学、3. 健康スポーツ科学、4. ICT・ロボット工学、5. ナノ・エネルギー、6. 数物系科学）をモデル拠点として選定し、先行的に集中投資を行い、先端的な研究を進めてき

Waseda placed	Subject	Global Rank	in Japan
9 subjects in the Global Top 100	Sports-related Subjects	19	1
	Modern Languages	41	3
	Engineering - Mineral & Mining	50	1
	Business & Management Studies	51-100	2
	Politics & International Studies	51-100	2
	Geography	51-100	3
	Linguistics	51-100	3
	Sociology	51-100	3
	Engineering - Mechanical, Aeronautical & Manufacturing	51-100	6

ました。今回のランキングにおいても、これらモデル拠点に関係する分野を中心にランクを上げており、例えば、健康スポーツ科学拠点と関係の深い、新設の「Sports-related Subjects」が今回のランキングにおいて世界で19位、国内1位となるなど、各モデル拠点における先行的かつ積極的な取り組みが着実に成果に結び付いてきているものと考えています。

対象を200位以内に広げると24分野（昨年は21分野）がランクイン、また、一定の点数を獲得しなければランクが付かない中、27分野（昨年は23分野）にランクが付いています。さらに、46分野は大きく5つのエリアにまとめ

られており、人文科学、社会科学・経営学についてはそれぞれ世界で45位、59位、またいずれも国内3位と非常に高い評価を得ています。

今回の結果は、本学の研究力が世界的に高く評価されていることに加え、本学の有する総合性も高く評価されていることを示しており、前述の目標達成に向け、大きく弾みをつけるものとなりました。早稲田大学は、世界を牽引し世界に貢献する大学であり続けるため、今後より一層の改革を推進してまいります。

※QS社：英国の教育関連事業者。毎年世界中の大学を評価し、様々な種類の大学ランキングを発表しています。

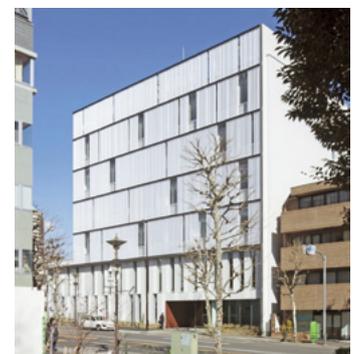
議論できる語学力習得を目指して

「29号館」完成

新たな語学教室棟である29号館が完成し、3月7日に竣工式が行われました。議論できる語学力修得を目指すチュートリアル英語・中国語の教室を中心に、TOEFL試験会場にも対応した教室棟が整備されており、早大生が国際化に対応する能力を養う重要な教場として活用されていくこととなります。

早稲田通りに面する初めての本学

施設は、未来の語学教育のシンボルたり得る「先進性」と、明治時代より大学と共に発展してきた早稲田地域の「活気ある街並みに対する応答」を融合させ、上層と低層を分節させることで周辺景観に調和したデザインとなっています。低層部の開口部からは、教室内部の活発な議論やアクティビティが見えるのも特徴です。また、外装は環境負担を軽減する素材を使用



今後この29号館で学んだ早大生が、国際社会で大いに活躍することが期待されます

するなど、デザイン性と環境への配慮を両立させる作りとなっています。

北九州地域の未来を切り拓く

アントレプレナー育成プログラムを開催

早稲田大学では、文部科学省「グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)」の採択を受け、「WASEDA-EDGE人材育成プログラム」を立ち上げ、イノベーションを起こせる人材の育成を推進しています。3月26日、北九州学術研究都市において公益財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)と協力し、起業・新規事

業開発のスタートアップの際に役立つセミナーを実施しました。

社会人向けコースでは講義やグループワークを通じ「ビジネスモデル仮説検証:エッセンシャルコース」を学び、学生向けコースでは“属人的でなく仕組みとして”ビジネスモデルを革新できるようにした『ビジネスモデル・ナビゲーター』手法をアクティブラーニ



社会人向けコースの様子

ング形式で学びました。

セミナー後の懇親会では社会人と学生が交流し、アントレプレナーを目指す志高い者同士が熱く語り合いました。

2016年度学生文化賞表彰式

総長招待 学生の集いを開催

課外活動を奨励することを目的に、特に優れた成果を挙げた早大生を表彰すべく2001年に創設された「早稲田学生文化賞」。2016年度は競技ダンス2016 W.D.S.F. Taipei Open A.D.S.F University ChampionshipでStandard第3位 を獲得した内田和孝(創造理工学部卒)さん、新井さくや(教育学部卒)さんなど個人16件、団体8件が受賞しました。

3月16日に行われた授賞式では、鎌田薫総長より表彰状と「早稲田大学での教室だけでない学びを通じて人間力を育てたことは大きな成果であり、社会に出た時に大きく役立つものと考えます」と激励の言葉が贈られました。

同日正午から大隈ガーデンハウスで開催された「総長招待 学生の集い」では小野梓記念賞、早稲田学生文化賞



表彰式の様子

の受賞者、さまざまな分野で目覚ましい活躍をした学生、大学の取り組みや活動に大きく貢献した約200名の学生を総長が招待して、その成果や業績、功績をたたえました。

早稲田のエジプト調査隊が新たな発掘

色鮮やかな壁画の岩窟墓を発見

早稲田大学エジプト学研究所は、エジプト・アラブ共和国の南部のルクソール市対岸(古代テーベ西岸)のアル=コーカ地区で、色鮮やかな壁画が描かれた岩窟墓を発見、1月31日、エジプト考古省はこの岩窟墓が新王国ラメセス朝(第19・20王朝:前1200年頃)の「王の書記」の称号をもつ「コンスウ」という人物のものであると発表しました。

同研究所は3年前の2013年12月末にも、同じ発掘区で鮮やかな色彩の壁画の残る「ビール醸造長」の称号をもつ「コンスウエムヘブ」の墓を発見しており、今回の発見はそれに続く快挙です。

早稲田大学のエジプト調査隊は1966～67年に踏査を実施、1971年からマルカタ南遺跡の発掘調査を開始、1976年には拠点となるワセダハウスを



色彩鮮やかな装飾が残るコンスウ墓天井

建設し、現在も毎年発掘調査を続けています。発掘区周辺からは、未知の墓が今後も発見されることが期待されます。

世界初 人工細胞で「細胞質流動」の再現に成功

機械よりも高効率で働く生体機能を模倣した 輸送システム構築の可能性

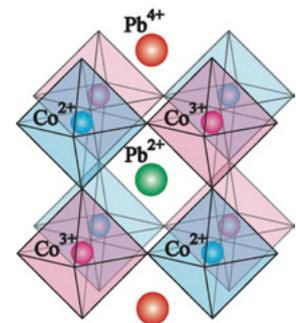
理工学術院の鈴木和也助手、宮崎牧人助教、石渡信一名誉教授らの研究グループは、人工的な環境下で微小管による「細胞質流動」の再現に世界で初めて成功し、流動の発生における細胞膜や微小管の剛性の役割を明らかにしました。

細胞質流動とは、「細胞質と呼ばれる細胞を満たしている液体が細胞内で流れる現象」で、細胞全体に栄養素を行き渡らせるための物質輸送システム

であると考えられていますが、動物細胞において細胞質流動が発生する仕組みは未解明な部分が多く残されています。本研究の成果は細胞質流動の研究に新たな視点を与え、その仕組みを解き明かす手掛かりとなり、生物学、医療分野への貢献が期待されるほか、生体工学分野への貢献として、生体機能を模倣した物質輸送システム構築の可能性が開けることも大きく期待できます。

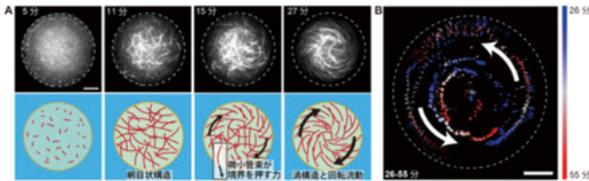
東工大チームとの共同研究

コバルト酸鉛の合成に 世界で初めて成功して 新規の電荷分布を発見



本研究成果は2017年3月15日に米国化学会誌「Journal of the American Chemical Society」オンライン版に掲載されました

早稲田大学の研究グループを含む東京工業大学を中心とした研究チームが、ペロブスカイト型酸化物のコバルト酸鉛の合成に成功し、鉛とコバルトの両方に電荷秩序を持った「 $Pb^{2+}_{0.25}Pb^{4+}_{0.75}Co^{2+}_{0.5}Co^{3+}_{0.5}O_3$ 」という他に例のない電荷分布が実現していることを発見しました。鉛とコバルトのエネルギー準位を制御することで特殊な電荷分布が実現することを、放射光X線と中性子線を用いて明らかにしました。電荷秩序が融解する際には超伝導や巨大磁気抵抗効果が発現することが多く、今後 $PbCoO_3$ の改質で、こうした現象が起きることが期待されます。今回の研究から、元素周期表を右に進むにつれて3d遷移金属の平均価数が系統的に減少し、反対に鉛の価数は増加することがより一層明らかになりました。今後 SPring-8 と J-PARC を併用することによって、まだ明らかになっていないマンガン酸鉛などの電荷分布の解明が待たれます。



人口細胞内における (A) 微小管渦構造形成の過程と、(B) 細胞質流動によって微粒子が運ばれる様子
 本研究成果は、米国科学アカデミー紀要(PNAS)のオンライン版に2017年3月6日に掲載されました

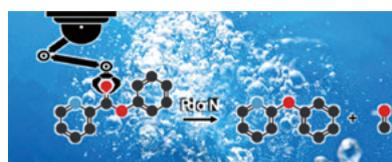
エステルからエーテルをつくる

世界初・脱一酸化炭素金属触媒の開発に成功

理工学術院の山口潤一郎准教授らの研究グループは、独自に開発した脱一酸化炭素金属触媒により、抗がん剤や抗マalaria薬などの医農薬に頻繁にみられる「ジアリールエーテル骨格」を芳香族エステルから合成することに世界で初めて成功しました。

これまでジアリールエーテル骨格は、遷移金属触媒を使った芳香族化合物とアレノール類のクロスカップリング反応で合成されてきましたが、原料が高価であることや廃棄物排出に関して改善すべき点がありました。今回の研究では、独自で開発したニッケル

もしくはパラジウム触媒を用いて芳香族エステルから一酸化炭素を取り除いてジアリールエーテル化合物へと導くことに成功。ジアリールエーテル化合物を安価な芳香族エステルから合成することが可能となり、医農薬の開発研究に新たな標準手法を提供できます。



本研究成果は、アメリカ化学会誌『Journal of the American Chemical Society』のオンライン版に2017年2月21日に掲載されました

短距離走行・高頻度充電コンセプトを採用した電気バスの実証試験にて

一般道路走行時に

約4割、高速道路走行時に

約6割のCO₂削減効果を確認

理工学術院の紙屋雄史教授は株式会社東芝との研究グループで、電源コードなどの接続なしで遠隔給電が可能な最新のワイヤレス充電装置を搭載する短距離走行・高頻度充電型電気バスの公道走行実証試験を行い、同サイズのディーゼルバスと比較して一般道路走行時に約4割、高速道路走行時に約6割のCO₂削減効果を確認しました。

本実証では、小型電気バス“WEB-3 Advanced”ならびに同様のコンセプトで開発した中型電気バスの2台を、2016年2月から2017年1月までANAならびにANAグループの連絡バスとして川崎市や羽田空港周辺の公道にて1日3～4往復走行し、計測した電氣的・機械的データを基に早稲田大学がCO₂削減効果を導出しました。

早稲田大学は、今後も、重量車（バスやトラック）の電動化、ならびにそれらの本格的普及に向けた研究活動・社会貢献活動を続けていきます。

	小型電気バス	中型電気バス
走行車両		
走行期間	2016年2月～2017年1月	
走行区間	川崎市緑町と大田区東糀谷のANAの拠点間約6km（一般道路走行）	川崎市緑町と羽田空港内のANAの拠点間約11km（高速道路走行含む）
走行頻度	4便/日	3便/日
一週あたりの充電時間	約15分	約20分
利用者	ANAおよびANAグループの従業員	
CO ₂ 削減効果*	42%	60%

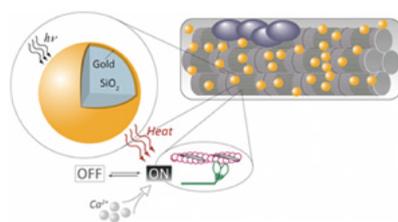
*軽油CO₂排出係数：2.83kg-CO₂/ℓ（Well to Wheel）、電気CO₂排出係数：0.406kg-CO₂/kWhとして計算

本研究は、環境省が公募した「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」における採択課題です

再生医療や生体工学分野への応用に期待

光をあてたナノ粒子から出る「熱」で細胞毒性低く筋肉をワイヤレスに活性化する新手法を開発

早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所の研究グループは、イタリア技術研究所、シンガポール国立大学と共同で、細胞内のナノ粒子に光を当て骨格筋の収縮をワイヤレスに誘導する新手法を開発。



研究の概要。光とナノ粒子を用いて、筋肉をワイヤレスに活性化する。近赤外光（NIR）を照射した金ナノシェル（SiO₂の核と薄い金の殻を持つナノ粒子）からの熱発生（Heat）が、収縮する力を生ずるタンパク質のスイッチをONにして、筋力の増強の促進を誘導する。カルシウムイオン（Ca²⁺）でONになる通常の過程とは異なる経路をとることが、強く示唆された。

本研究成果は、アメリカ化学会（ACS）発行の『ACS Nano』のオンライン版に2017年1月20日に掲載されました。また、Nature Publishing Group発行の『Nature Nanotechnology』2017年3月号のNEWS AND VIEWSコーナーで紹介されました

法を開発。この手法は細胞内カルシウムイオン濃度の上昇が起こらない新しい収縮過程であることも分かりました。

電気刺激によるものは、与える電場が不均一、電気分解で生じるイオンによる細胞毒性といった課題が残されていました。本研究では、金ナノシェルというナノ粒子を取り込んだ細胞に特定の近赤外光を照射すると、発生した熱で筋肉の収縮が誘導され、金ナノシェルのある細胞だけを選択的かつ同時に刺激できることが分かりました。また体液に吸収されにくい波長の近赤外光により生体の奥の細胞を刺激できると見込まれ、再生医療や生体工学分野への応用が期待されます。

もっと身近に3Dプリンティング！

家庭でも高精度フィギュア作成が可能に

理工学術院の梅津信二郎准教授の研究グループは、3Dプリンティング造形物の表面を化学溶解によって滑らかにする3次元化学溶解仕上げ（3D-Chemical Melting Finishing）機構を開発。さらに、表面が滑らかになると造形物の光の反射量が増加することに着目して、画像化した造形物の明度によって仕上げ具合を評価する手法も考案しました。

3Dプリンティングが一般への普及が進んでいない原因として、造粉塵の発生、安全面などの問題があります。

今回開発した手法では、ペン型の機構から最小限の溶剤を吐出し、造形物の表面を溶解することで積層痕を充填し平滑化。積層痕を選択的に除去でき、熱溶解という化学溶解プロセスにより安全かつ安価で粉塵も発生しません。本研究成果によって、これまであまり普及してこなかった3Dプリンティングが一般家庭に浸透することが期待されます。

本研究成果は英国Nature Publishing Groupのオンライン科学雑誌『Scientific Reports』（2017年1月5日）掲載されました

“WASEDAの未来に参画せよ”

「第5回Waseda Vision 150 Student Competition」決勝大会

今年で5回目を迎えた「Waseda Vision 150 Student Competition」の決勝大会が3月13日に小野記念講堂で開催されました。早稲田大学が中長期計画として掲げる“Waseda Vision 150”のもと、大学の主役である学生たちが仲間を集め、「早稲田」に対する思いをこめた提案を行う本企画。今回は32チーム総勢約100名の学生がエントリーし、予選を勝ち抜いた上位8チームが決勝大会に進出。サークル活動支援や図書館改革といった学生にとって身近な問題への提案の他、地方学生の増加や校友との交流など、大学全体への改革案などが発表されました。

これらの中から第5回の金賞（総長賞）に輝いたのは、より活発な留学生との交流を提案したチーム「W³ ~ W-Cubed ~」の4名。メンター制度や新たな授業の設置により、日本で最も多くの留学生を受け入れている現状を生かすことを目標とした企画が評価されました。

各チームの提案発表後には、本学校友で株式会社テレビ東京制作局プロデューサーである伊藤隆行氏により、



金賞を受賞した「W³ ~ W-Cubed ~」のメンバー

これまでの番組作りで培われた「モノの考え方」や「発想」の幅を広げる方法についての特別講演が行われました。ほか、早稲田大学への熱い思いから、学生も決勝大会の司会や企画の運営など積極的に参画し、有意義な大会となりました。

結果	チーム名	発表テーマ
金賞（総長賞）	W ³ ~ W-Cubed ~	Watashi-Waseda-World
銀賞	早稲田心理学コース	朝食ミーティング
銅賞	早稲田活用部	My Waseda をより活用するために
進取の精神賞	眠れる西北の杜の早稲女	図書館改革

2018年春採用の就職活動が本格化

学内合同企業説明会開催

3月1日から17日までの13日間に早稲田キャンパスにおいて、学内合同企業説明会が開催されました。大学内で行われる本説明会は、企業・団体等を大学に招聘し、就職活動を行う学部3年生・修士1年生以上の学生に対し、企業研究の場を提供するものです。

早稲田大学の学内合同企業説明会は、学外のものとは異なり、1教室1企業としているため、学生はゆっくり座って説明を聴くことができます。また、1日6セッションが確保され、全回参加すると70社以上の企業説明を聞くことができます。企業の説明は早大生に向



受付に並ぶ多数の学生たち

けた内容となっており、企業で活躍しているOB・OGが直接早大生が抱く疑問に回答するほか、グローバル人材採用に向けた英語による説明会も併せて開催しています。

13日間の参加企業数は503社、累計参加学生数は29,844名、延べ参加学生数は、107,914名となりました。参加者学生数、参加企業数と顔触れに



学生で埋まった説明会会場

において国内有数といえるでしょう。

例年、この学内合同企業説明会をきっかけに自分にとっての良い企業と出会い、内定に結び付いた学生も多数います。学生がこうした機会を活用し、十分に企業研究を行い、より適した進路選択ができることをキャリアセンターは期待しています。

早稲田の謎を解き明かす

謎解きミュージアムスタンプラリーが終了

2015年度「Museum Week」期間中に特別企画としてスタートした「ミュージアムスタンプラリー」。日本で唯一の演劇博物館、美術品や考古資料などを一堂に集めた會津八一記念博物館など、本学が誇る「早稲田文化」を体感できるミュージアムをもっと多くの方に知ってもらおうと生まれました。クイズに答えながらスタンプを押して回って

いるうちに多くの「知らなかった」に出会うことができると好評を得、予想を大幅に上回る来場者に、急きょ Museum Week 終了後も通年開催されることが決定。約2年間でストーリー変更を3回加え、これまでの参加者は約1,500名にのぼりました。同イベントは4月18日をもって終了となり、文化推進部ではこのミュージアムスタンプラリーに



スタンプラリーのゴールで写真撮影

代わる企画を「Museum Week 2017」（5月22日～6月2日）に向けて準備中です。そちらもどうぞ楽しみに。

第90回全日本学生スキー選手権大会

スキー部男子が6年ぶりに総合優勝、女子も準優勝

2月19日から24日、青森県大鰐町で「秩父宮杯・秩父宮妃杯 第90回全日本学生スキー選手権大会」が開催されました。最終日までつれる大接戦の中、スキー部男子が6年ぶりに見事総合優勝を果たしました。総合6連覇を

目指す女子は、クロスカントリーリレーで1位と健闘するも、僅差で総合準優勝で幕を閉じました。チームスローガン「総活躍」のもと、来年度はアベック優勝を目指します。



日本で、世界の舞台で雪の王者をめざすスキー部への応援よろしくお祈いします

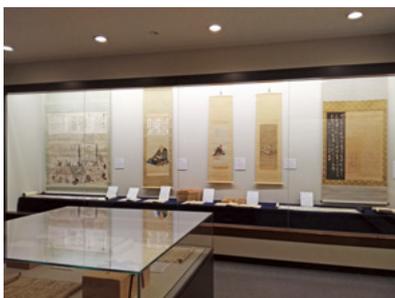
長らく展観されなかった“名品”が一堂に

「図書館所蔵の国宝・重要文化財」展示

1991年4月の開館以来、四半世紀にわたり、中央図書館では収蔵する貴重資料のデータによる画像公開事業が進められてきました。一方で、「こうした

資料そのものが観たい」という声もあり、今回、開館25周年を記念して、3月17日～4月5日の期間で「図書館所蔵の国宝・重要文化財」展を開催。館蔵資料のうち選りすぐりの品々が展示されることとなりました。指定文化財の

なかでもおよそ10年ぶりの公開となる国宝は『礼記子本疏義 第59』『玉篇 卷第9』の2点、重要文化財は『尾張国郡司百姓等解文』『崇光上皇宸筆願文』など5件、そのほか歴史上重要な資料が一堂に集まり、公開されました。



展示風景



国宝『礼記子本疏義 第59』巻末部分



重要文化財の古文書類

BOOKS



本学教員の著書や各部署による刊行物をご紹介します。
※()内は著者・編者・監修者の所属(刊行時)です

今号のオススメ

『動く大地、住まいのかたち プレート境界を旅する』
中谷礼仁(理工学術院)著 岩波書店 2017年3月



大地は動いている。地球の地殻を構成しているプレートの運動は、大地の形を大きく変え、地震や噴火を引き起こす。動く大地は、日本を含むユーラシアのプレート境界域に何をもたらしたのか。本書は、環境を創造し、時に人間社会を壊滅させるプレート運動の驚異的なエネルギーと、その大地で生き抜く人々の居住文化の姿や社会のあり方を活写する。広大な地域を歴巡し、人間として社会の存立条件を捉えなおした類を見ない建築論的旅の記録。

- 『社会保障・福祉六法』
菊池馨実(法学学術院)ほか編集代表 信山社 2016年12月
- 『ヘルスコミュニケーション 健康行動を習慣化させるための支援』
島崎崇史(人間科学学術院)編著 早稲田大学出版 2016年12月
- 『科学報道の真相 ジャーナリズムとマスメディア共同体』
瀬川至朗(政治経済学術院)著 ちくま新書 2017年1月
- 『注釈日本国憲法(2)』
長谷部恭男(法学学術院)編 有斐閣 2017年1月
- 『日本列島100万年史 大地に刻まれた壮大な物語』
久保純子(教育・総合科学学術院)ほか著
講談社ブルーバックス 2017年1月
- 『東京新創造 災害に強く環境にやさしい都市
(東京安全研究所・都市の安全と環境シリーズ1)』
尾島俊雄(名誉教授)編 早稲田大学出版 2017年1月
- 『大学生のためのアルバイト・就活トラブルQ&A』
石田真(法学学術院)・浅倉むつ子(法学学術院)ほか著
旬報社 2017年2月
- 『マンション法の判例解説』
鎌野邦樹(法学学術院)・山野目章夫(法学学術院)ほか編
勁草書房 2017年2月
- 『朝河貫一と日欧中世史研究』
海老澤衷(文学学術院)・基野尚志(文学学術院)ほか編
吉川弘文館 2017年2月
- 『大隈重信 民意と統治の相克』
真辺将之(文学学術院)著 中央公論新書 2017年2月
- 『20世紀ロシア思想史 宗教・革命・言語』
桑野隆(教育・総合科学学術院)著 岩波書店 2017年2月
- 『マーケティング・エンジニアリング入門』
上田雅夫(理工学術院)ほか著 有斐閣 2017年2月
- 『現代日本語の文法構造 統語論編(早稲田大学学術叢書51)』
上野義雄(理工学術院)著 早稲田大学出版 2017年2月
- 『子どもの健康福祉指導ガイド』
前橋明(人間科学学術院)著 大学教育出版 2017年2月
- 『躍動・陸のASEAN、南部経済回廊の潜在力 メコン経済圏の新展開』
浦田秀次郎(国際学術院)ほか編著 文真堂 2017年2月
- 『戦後日韓関係史』
李鍾元(国際学術院)ほか著 有斐閣 2017年2月
- 『敦煌仏頂尊勝陀羅尼経変相図の研究』
下野玲子(會津八一記念博物館主任研究員)著 勉誠出版 2017年2月
- 『不平等を考える 政治理論入門』
齋藤純一(政治経済学術院)著 筑摩書房 2017年3月
- 『対人援助と心のケアに活かす心理学』
鈴木伸一(人間科学学術院)編著 有斐閣 2017年3月
- 『早稲田学報』
早稲田大学学報編集室 早稲田大学校友会 2017年4月

EVENTS

5-6月

本学で6月までに開催されるイベントを一部ご紹介します。
詳細は、直接【問い合わせ先】にご確認ください。
その他のイベントにつきましては、本学Webサイト
(<https://www.waseda.jp/top/event>) イベント情報をご覧ください。

會津八一記念博物館

- ①富田万里子コレクション長崎版画展
- ②武者小路実篤の書画

会場 ①會津八一記念博物館1階 企画展示室

②會津八一記念博物館1階 富岡重憲コレクション展示室

日程 ①2017年5月10日(火)～6月17日(土)

朱葉会会員の画家である富田万里子氏より受贈した阿蘭陀関係資料の内、錦絵とは異なる技法を用いた、異国情緒あふれる版画である長崎版画を紹介。

②2017年5月16日(火)～6月24日(土)

白樺派の小説家として知られる武者小路実篤は、晩年に身の回りにある季節それぞれの野菜や花々の絵を描いています。絵画作品を中心に、書を添えて展示。

問 會津八一記念博物館 TEL: 03-5286-3835

URL: <https://www.waseda.jp/culture/aizu-museum/>

地域・地域間研究機構

国際シンポジウム「水産物の透明性と持続可能性」

会場 小野記念講堂(1日目) 井深大記念ホール(2日目)

日程 1日目: 2017年5月16日(火) 13:00～17:15

2日目: 2017年5月17日(水) 13:00～18:00

本シンポジウムは、国内外の有識者を招聘し、水産物の持続可能な利用や違法・無報告・無規制漁業の対策について議論を行います。

問 早稲田大学アカデミックソリューション(担当: 桑原)

TEL: 03-3208-0102(内線701-274)

URL: <https://www.waseda.jp/inst/oris/>

文化企画課

①Museum Week 2017

②第8回早稲田学生文化・芸術祭

会場 ①演劇博物館、會津八一記念博物館等

②(1)ワセダギャラリーほか(2)大隈講堂

日程 ①2017年5月22日(月)～6月2日(金)

早稲田が誇るミュージアムの魅力をたっぷり味わえる2週間。キャッチコピーは「予想外が待っている」。詳細は早稲田文化ウェブサイトをご確認ください。

②(1)2017年6月5日(月)～24日(土) (2)2017年6月10日(土)～15日(水)

問 ①②文化企画課 TEL: 03-5272-4783

URL: <https://www.waseda.jp/culture/>

②学生生活課 TEL: 03-3202-0706

URL: www.waseda.jp/student/

留学センター 夏季短期留学 申請開始(先着順)

日程 2017年5月6日(土)12:30～

4月28日(金)に国際会議場にて実施した夏季短期留学説明会対象プログラムにつき、WEB申請を開始します。単位取得の科目扱いにもなり奨学金受給のチャンスもあります。

問 留学センター TEL: 03-3208-9602

URL: <https://www.waseda.jp/inst/cie/>

■発行 早稲田大学 広報室広報課◎
〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104
Tel: 03-3202-5454 e-mail: koho@list.waseda.jp

■制作協力 産業編集センター
※CAMPUS NOWは年4回発行の予定ですが、次号は、8月1日発行を予定しています。

「CAMPUS NOW」は WASEDA ONLINE でもご覧いただけます。
■日本語版 URL <http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/>
■英語版 URL <http://www.yomiuri.co.jp/adv/wol/4/y/>
小誌へのご意見、ご感想をお待ちしています。左記発行元まで、お寄せください。

大 限 の こ と ば

早稲田大学の創設者であり、
近代日本の設計者としてもさまざまな功績を残した大隈重信。
「進取の精神」「久遠の理想」——今なお受け継がれる大隈の、早稲田の精神を、
叡智と情熱にあふれる大隈自身のことばで、毎号ご紹介いたします。

失敗に落胆しなざるな、

失敗に打ち勝たなければならぬ、

度々失敗するとそれで此大切なる経験を得る、

其経験に依つて以て

成功を期さなければならぬのである、

所で此複雑なる社会の大洋に於て

航海の羅針盤は何であるか、学問だ

——1897(明治三〇)年の

第十四回東京専門学校得業証書授与式にて

(協力 早稲田大学史資料センター)

